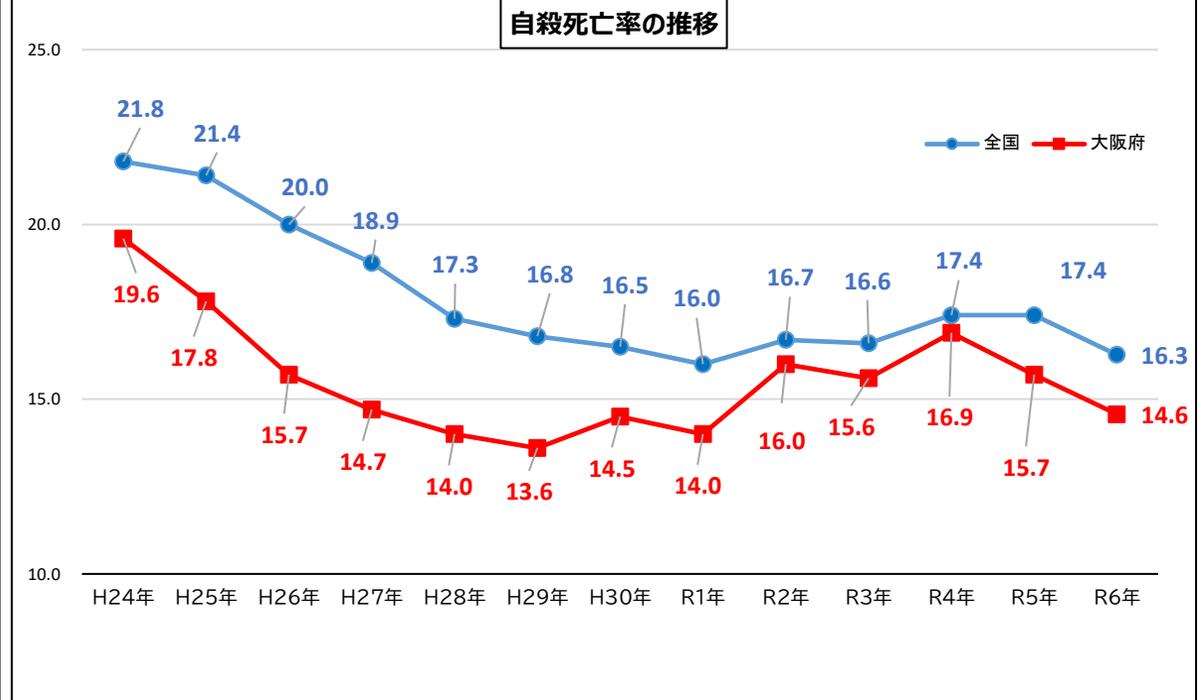
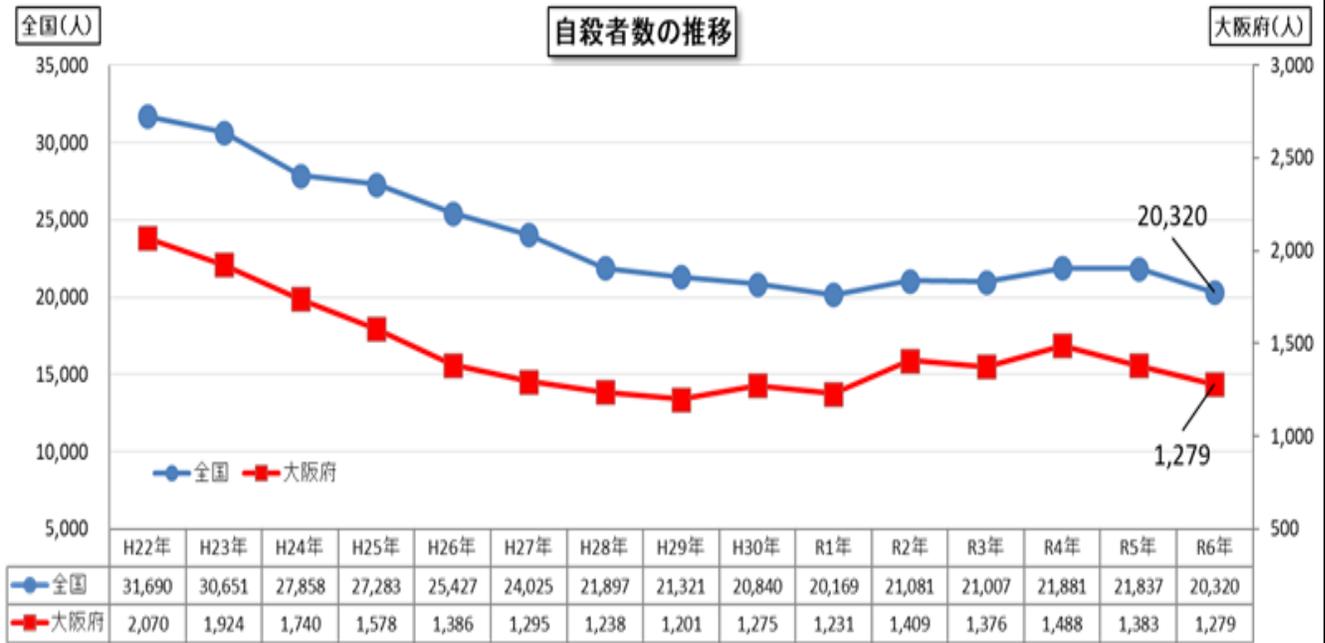


大阪府の自殺の状況

大阪府こころの健康総合センター

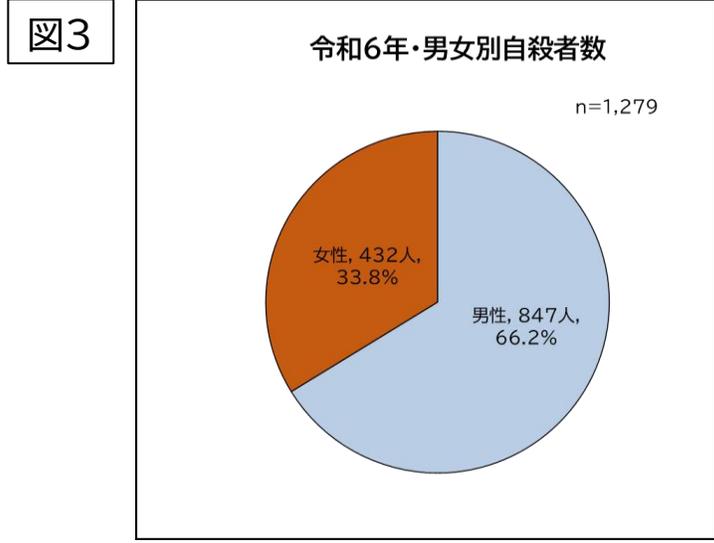
自殺者数の推移

自殺死亡率の推移

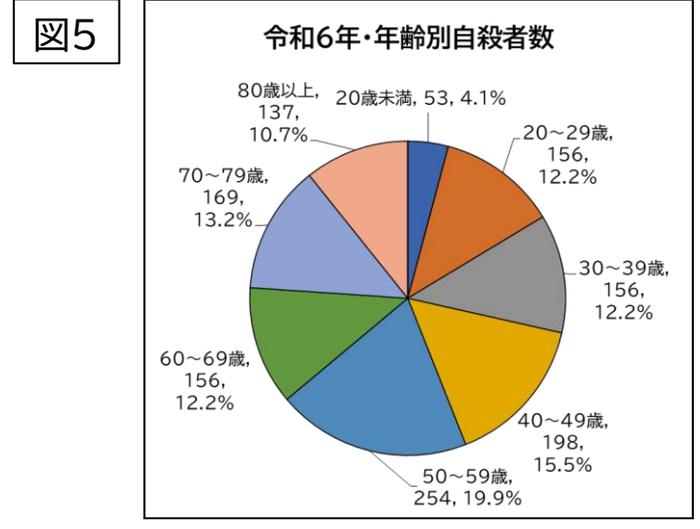


出典:厚生労働省自殺対策推進室作成 地域における自殺の基礎資料 発見日・発見地 ※警察庁の自殺統計

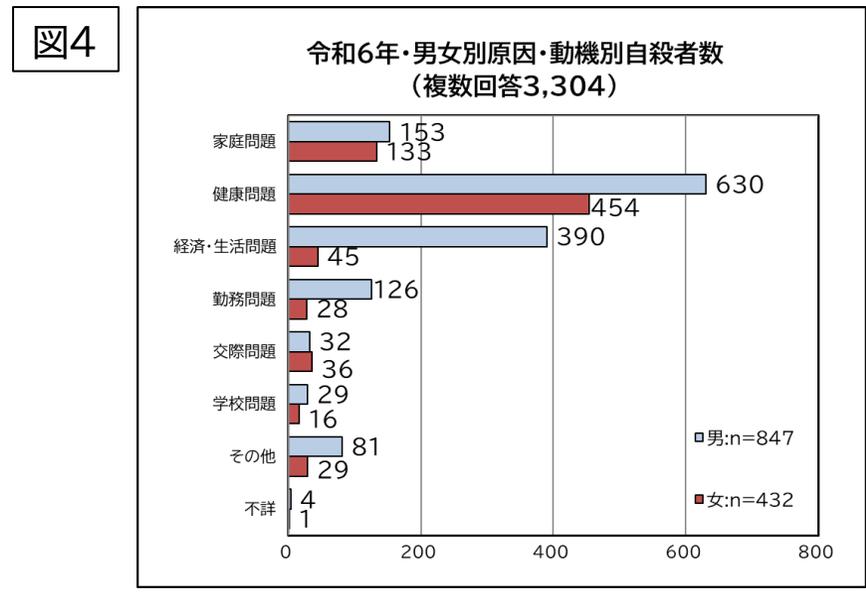
- 全国の自殺者数は、平成10年以降年間3万人を超えて高止まりの状態でしたが、平成22年から減少傾向となり、平成24年から継続して3万人を下回っています。
- 大阪府の自殺者数も全国と同様に推移し、平成10年に2千人を超え、一気に3割以上の増加後、若干の変動はあるものの横ばい状態で推移していましたが、平成23年より減少傾向となり、2千人を下回りました。
- 令和2年は新型コロナウイルス感染症の拡大といった要素があり、全国の自殺者数は11年ぶりに増加し、令和6年は前年より1,517人減少して20,320人でしたが、令和2年以前の状況には戻っていません。
- 大阪府でも同様に平成30年以降横ばい状態でしたが、令和2年に増加し、令和6年は前年より104人減少して1,279人となりましたが、1日に約4人の方が亡くなられている状況です。
- 令和6年の大阪府の自殺死亡率(人口10万人当たりの自殺者数)は、14.6となっています。



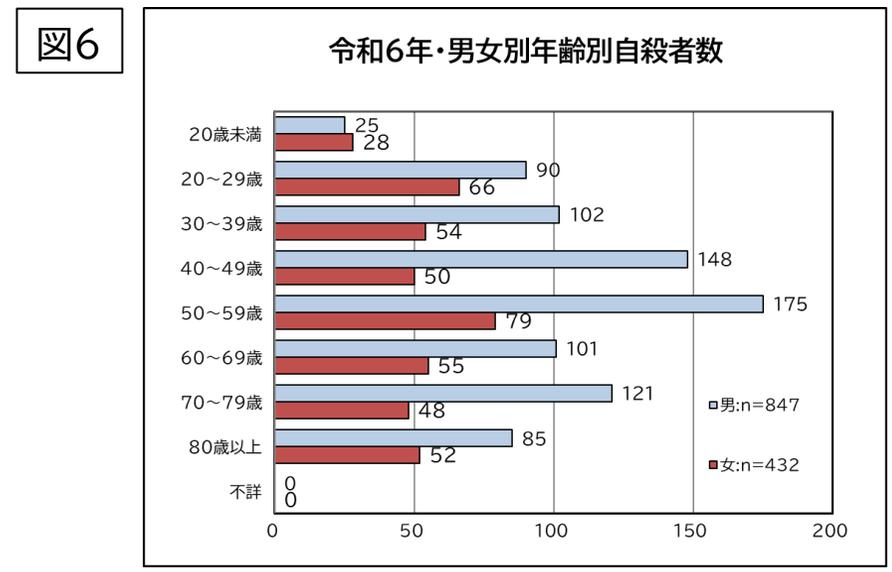
男女別自殺者数は、男性が847人(66.2%)、女性が432人(33.8%)となっており、依然として男性が女性の2倍に近い数となっています。



年齢別自殺者数は、「50~59歳」が254人(19.9%)と最も多く、次いで「40~49歳」が198人(15.5%)、「70~79歳」が169人(13.2%)と続いています。また、39歳以下の若年層の自殺者数は365人(28.5%)で、全体の約4分の1を占めています。60歳以上の高齢者の自殺者数は462人(36.1%)でした。

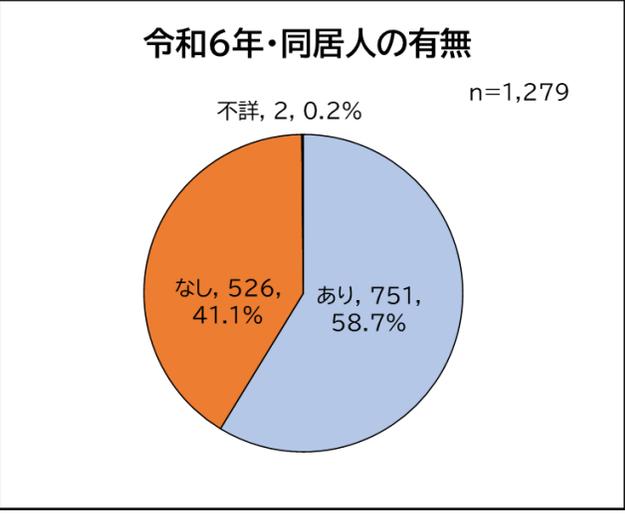


令和4年からは、家族の証言等から原因・動機を4項目まで計上することが可能になりました。男性、女性ともに、「健康問題」「経済・生活問題」「家庭問題」が上位を占めています。



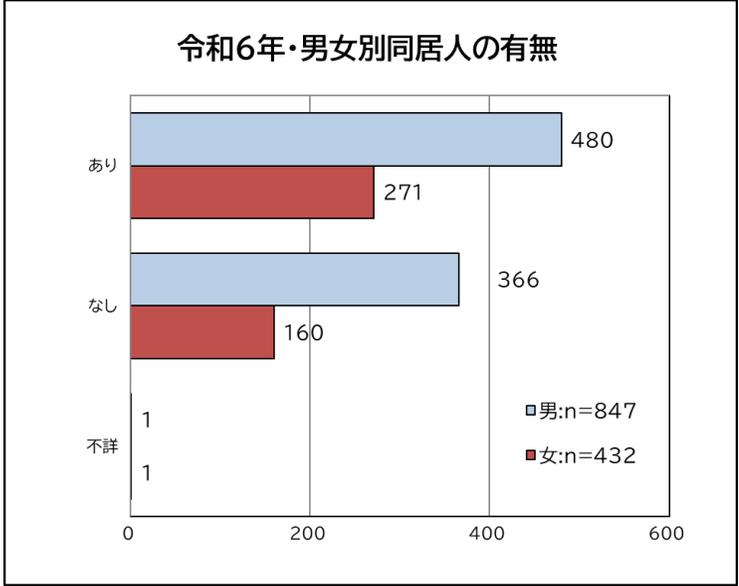
男女別に年齢別自殺者数を比較すると、男性は「50~59歳」175人(20.7%)が最も多く、「40~49歳」148人(17.5%)が続いています。女性は「50~59歳」79人(18.3%)が最も多く、次いで「20~29歳」66人(15.3%)となっています。

図7



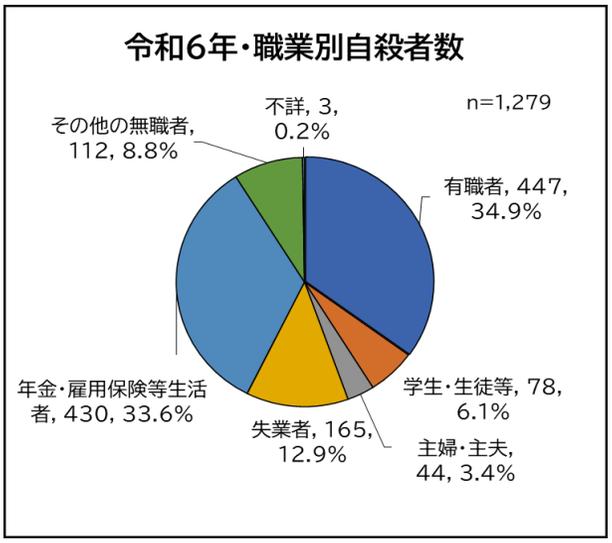
同居人の有無では、「同居人あり」が751人(58.7%)、「同居人なし」が526人(41.1%)となっています。

図8



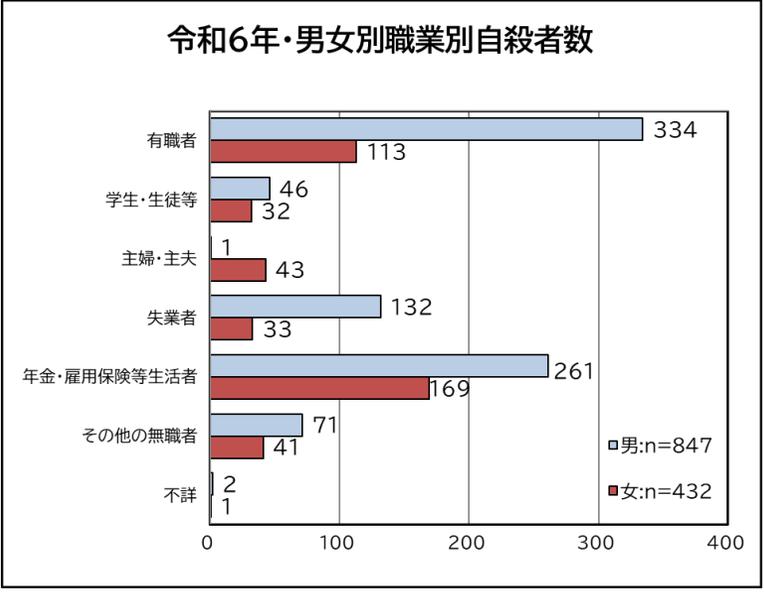
男女別の同居人の有無では、男性480人(56.7%)女性271人(62.7%)が「同居人あり」で、女性の方が「同居人あり」の割合が多くなっています。男性366人(43.2%)、女性160人(37.0%)が「同居人なし」でした。

図9



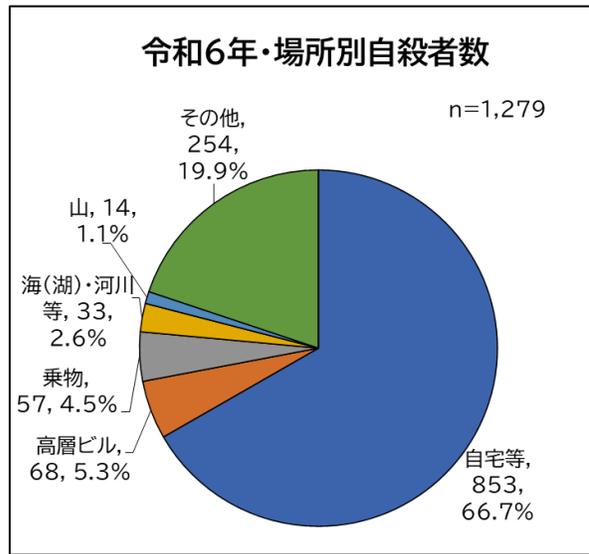
職業別自殺者数の割合は、「有職者」が447人(34.9%)と最も多く、次いで「年金・雇用保険等生活者」が430人(33.6%)となっています。「学生・生徒等」は、78人(6.1%)です。

図10



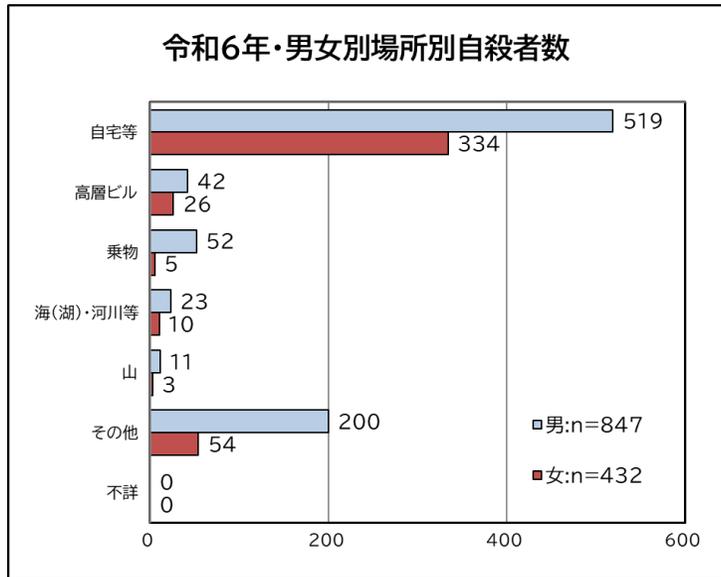
男女別に職業別自殺者数をみると、男性は「有職者」が334人(39.4%)で最も多く、次いで「年金・雇用保険等生活者」が261人(30.8%)となっています。女性は、「年金・雇用保険等生活者」が169人(39.1%)で最も多く、「有職者」が113人(26.2%)で続いています。

図11



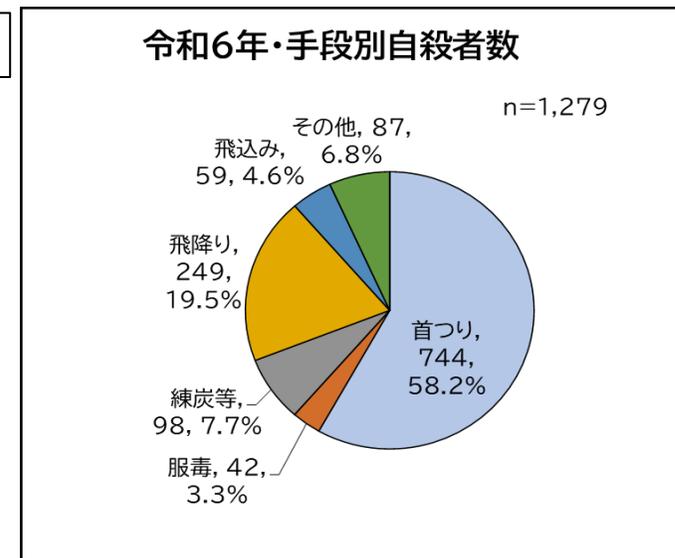
場所別自殺者数では、「自宅等」が853人(66.7%)と約7割を占めています。次いで「高層ビル」が68人(5.3%)となっています。

図12



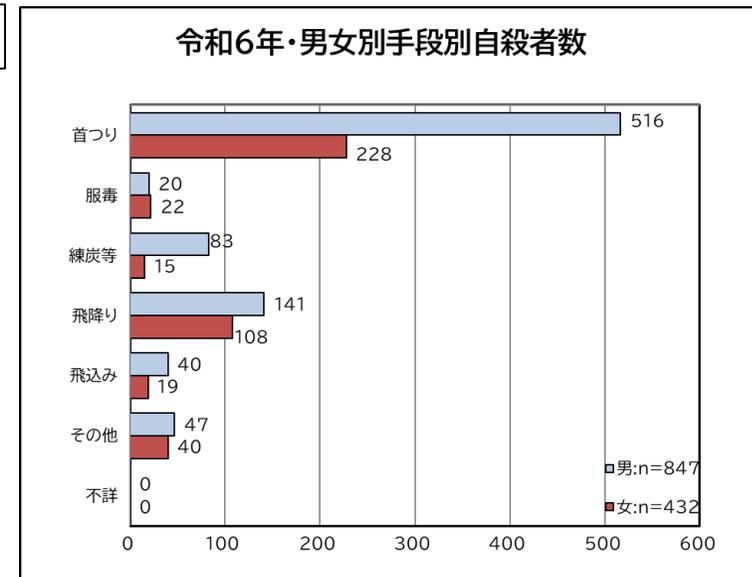
男女別に場所別自殺者数をみると、男女ともに「自宅等」が多くなっており、次いで「高層ビル」となっています。「自宅等」が男性519人(61.3%)で、女性334人(77.3%)、「高層ビル」が男性42人(5.0%)で、女性26人(6.0%)です。

図13



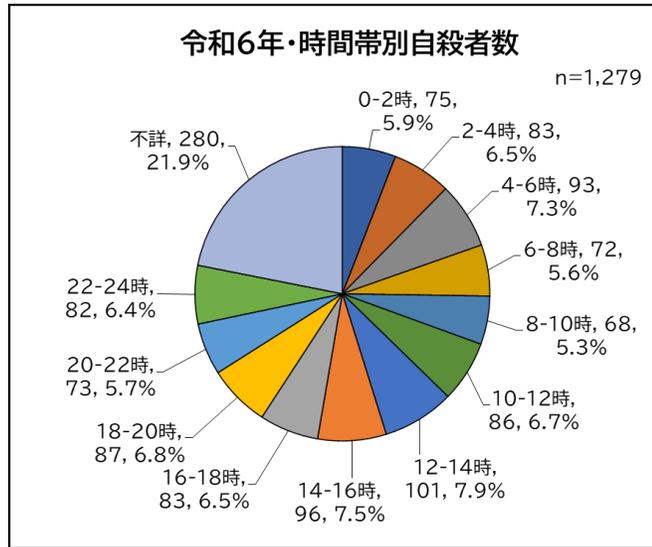
手段別自殺者数では「首つり」が744人(58.2%)と約6割を占めています。次いで「飛降り」が249人(19.5%)となっています。

図14



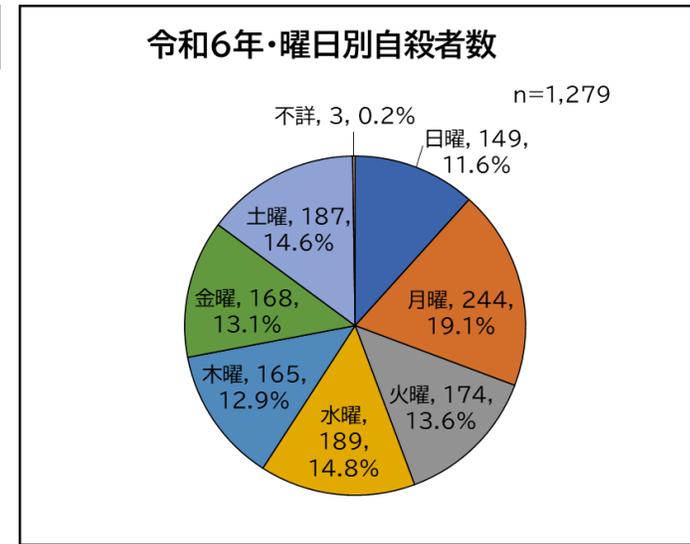
男女別に手段別自殺者数をみると、「首つり」が男女ともに多く、次いで「飛降り」が多くなっています。「首つり」は男性516人(60.9%)で、女性228人(52.8%)、「飛降り」は男性141人(16.6%)で、女性108人(25.0%)です。

図15



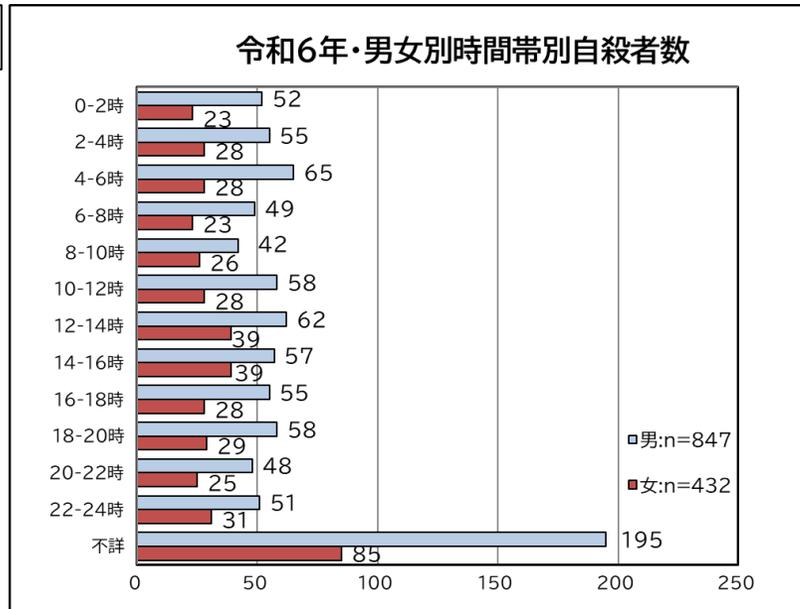
時間帯別自殺者数の割合では、「不詳」以外で最も多い時間帯は「12～14時」の101人(7.9%)、次いで「14時～16時」の96人(7.5%)となっています。少ない時間帯は「8時～10時」68人(5.3%)となっています。

図17



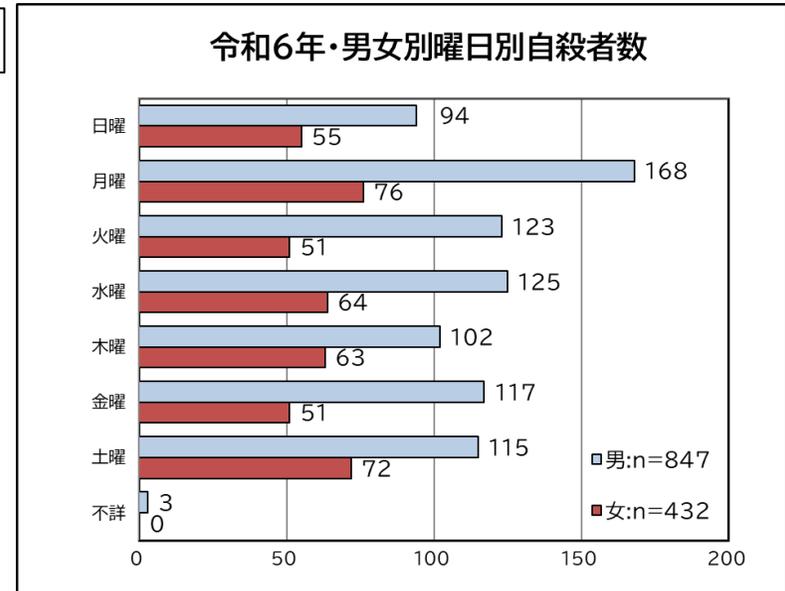
曜日別自殺者数の割合は、「月曜日」の244人(19.1%)が最も多く、「日曜日」の149人(11.6%)が少なくなっています。

図16



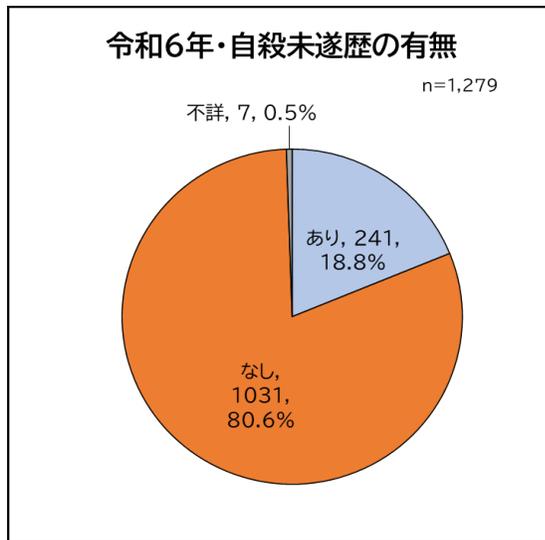
男女別の時間帯別自殺者数については、男性では「4～6時」が65人(7.7%)、女性では「12時～14時」「14時～16時」がそれぞれ39人(9.0%)でそれぞれ最も多くなっています。

図18



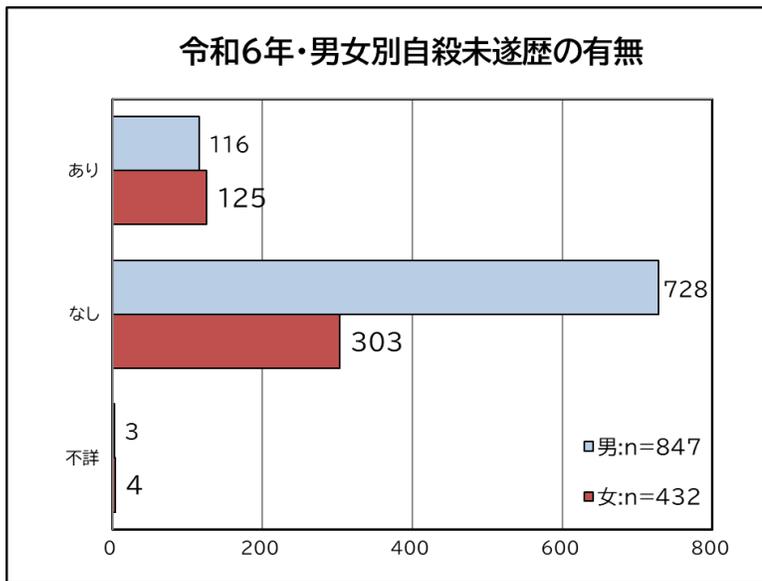
男女別の曜日別自殺者数では、男性は「月曜日」の168人(19.8%)が最も多く、「水曜日」の125人(14.8%)が続いています。女性も「月曜日」の76人(17.6%)が最も多く、「土曜日」の72人(16.7%)が続いています。

図19



自殺未遂歴の有無では、「あり」は241人(18.8%)で約2割を占めています。「なし」は1,031人(80.6%)となっています。

図20



男女別に自殺未遂歴の有無をみると、男性の自殺未遂歴「あり」の割合は116人(13.7%)、女性の自殺未遂歴「あり」の割合は125人(28.9%)となっており、女性の自殺未遂歴「あり」の割合が男性の約2倍多くなっています。

経年の状況(令和2年から令和6年)

【自殺者数の傾向】

○令和6年の自殺者数は前年と比べて減少。(全国も同様)前年より104人減の1,279人であった。

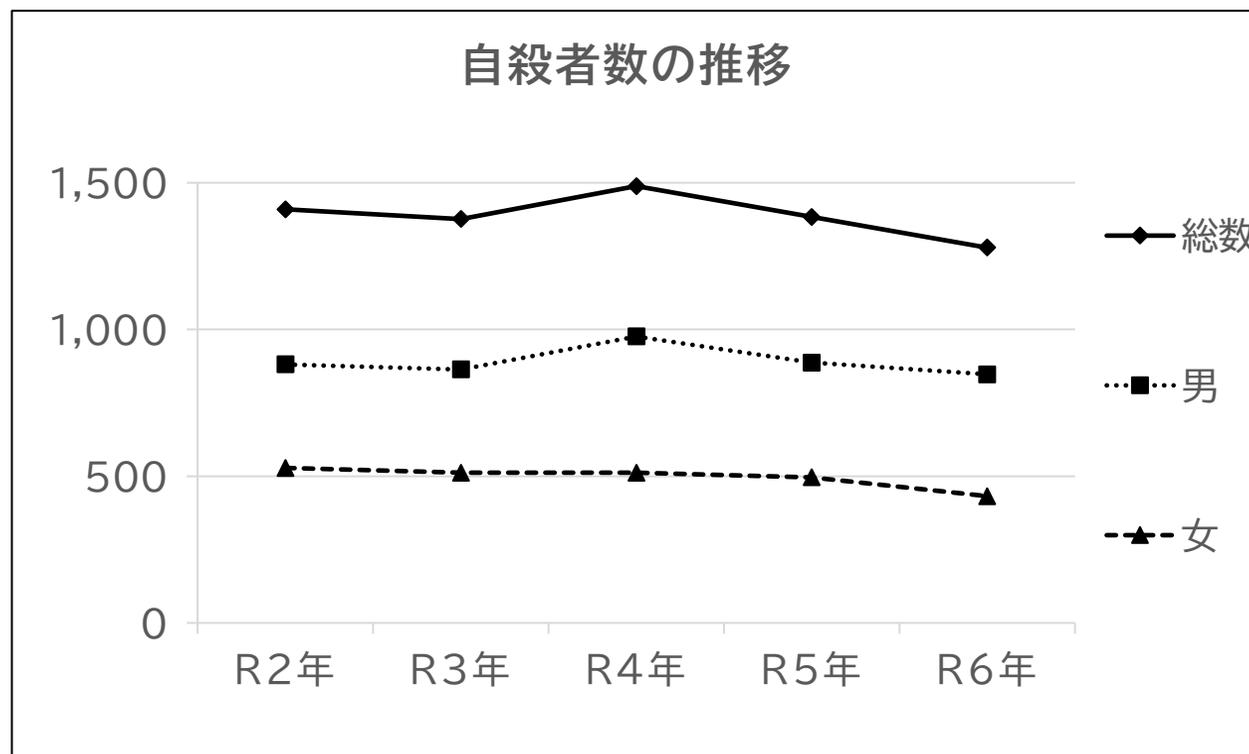
○男性は40人減少し(対前年増減率-4.5%)、女性は64人減少した(対前年増減率-12.9%)。

→令和5年、令和6年と減少しているものの高止まりの状況で、令和2年以前の状況に戻っていない。

表1

	総数	男	女
R2年	1,409	881	528
R3年	1,376	864	512
R4年	1,488	976	512
R5年	1,383	887	496
R6年	1,279	847	432

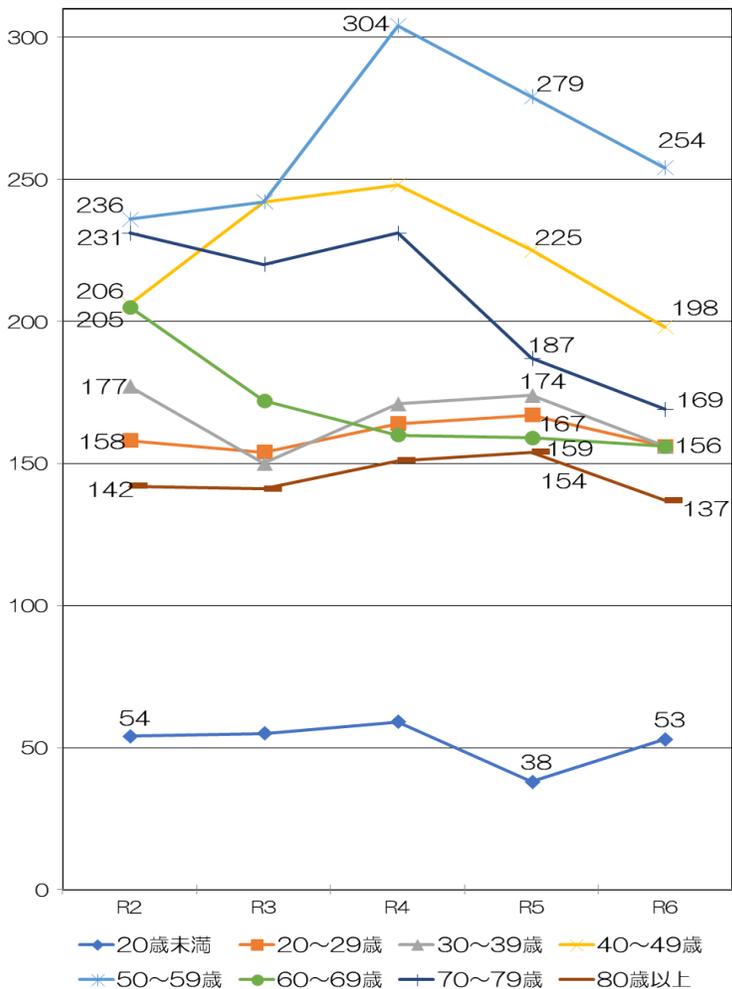
図1



経年の状況(令和2年から令和6年)年齢別

年齢別(総数)

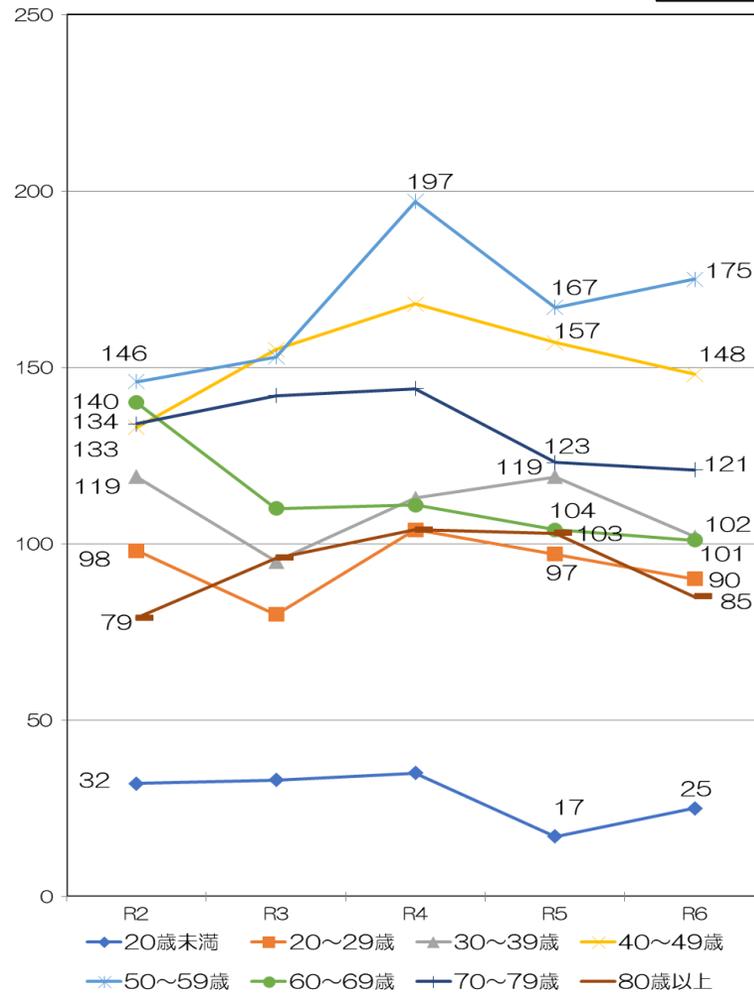
図2



令和6年は、「20歳未満」以外の年代で減少した。「20歳未満」は53人と令和5年より15人増。(対前年増減率+39.5%)

年齢別(男性)

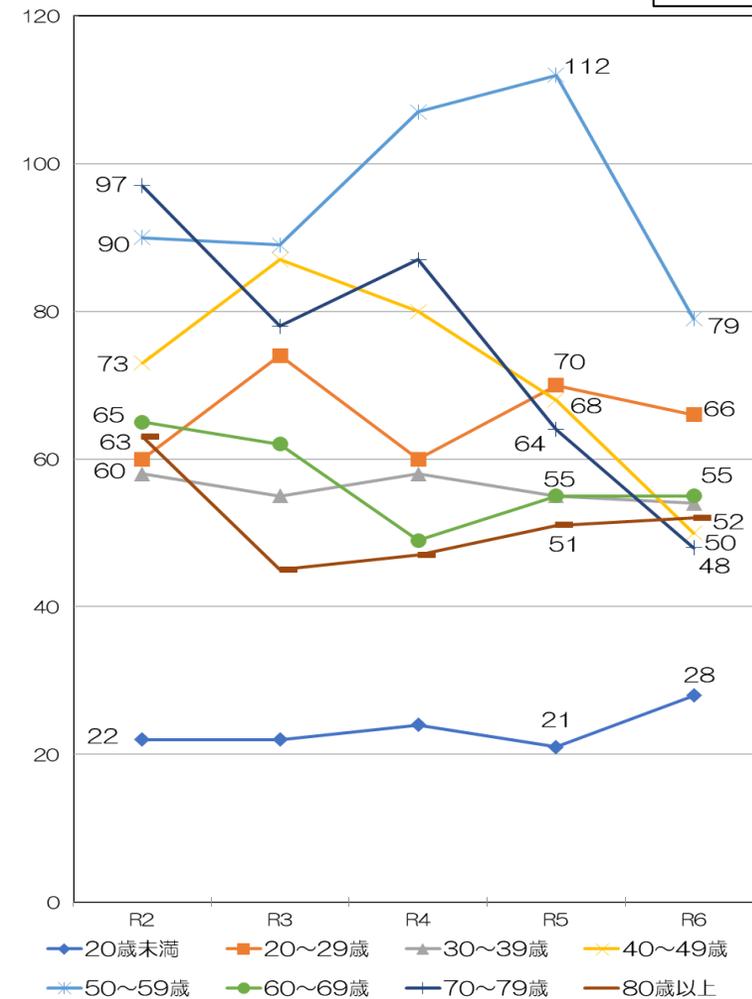
図3



男性は、令和6年について、令和5年より、「20歳未満」(対前年増減率+47.1%)「50~59歳」(対前年増減率+4.8%)において増加し、それ以外の年代では減少した。

年齢別(女性)

図4

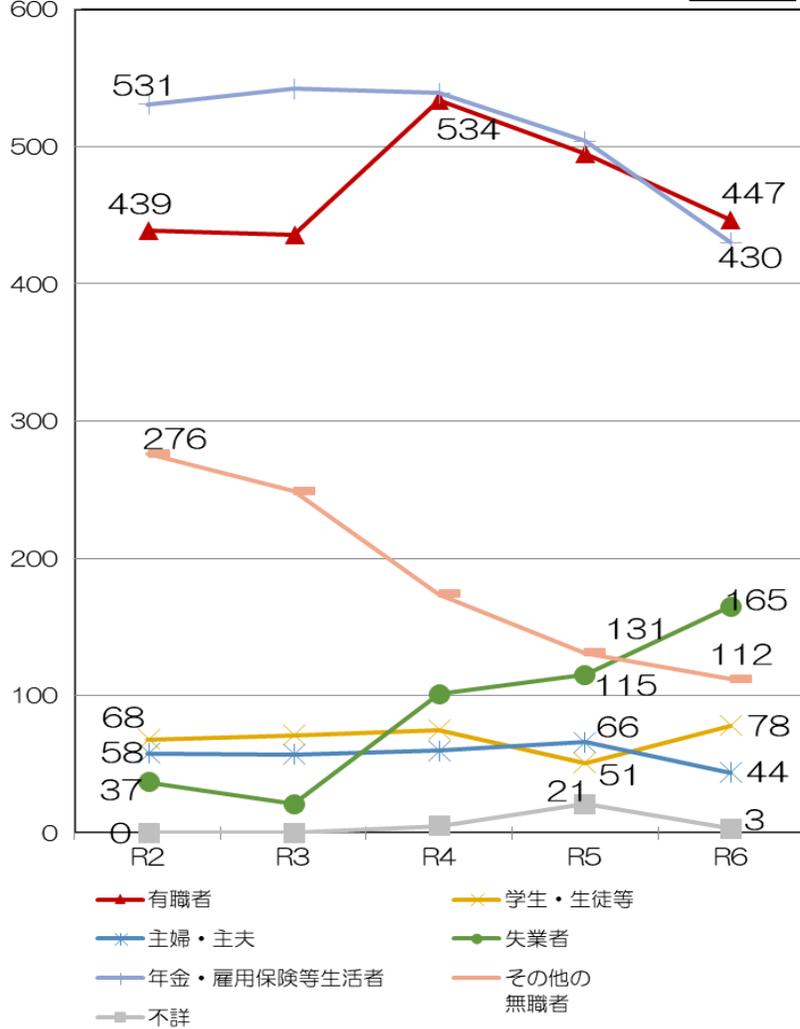


女性は、令和6年について、令和5年より、「20歳未満」(対前年増減率+33.3%)「80歳以上」(対前年増減率+2.0%)で増加し、「60~69歳」は増減なし、それ以外の年代では減少した。**39歳以下の自殺者が全体の28.5%、60歳以上が全体の36.1%を占めている。**

経年の状況(令和2年から令和6年)職業別

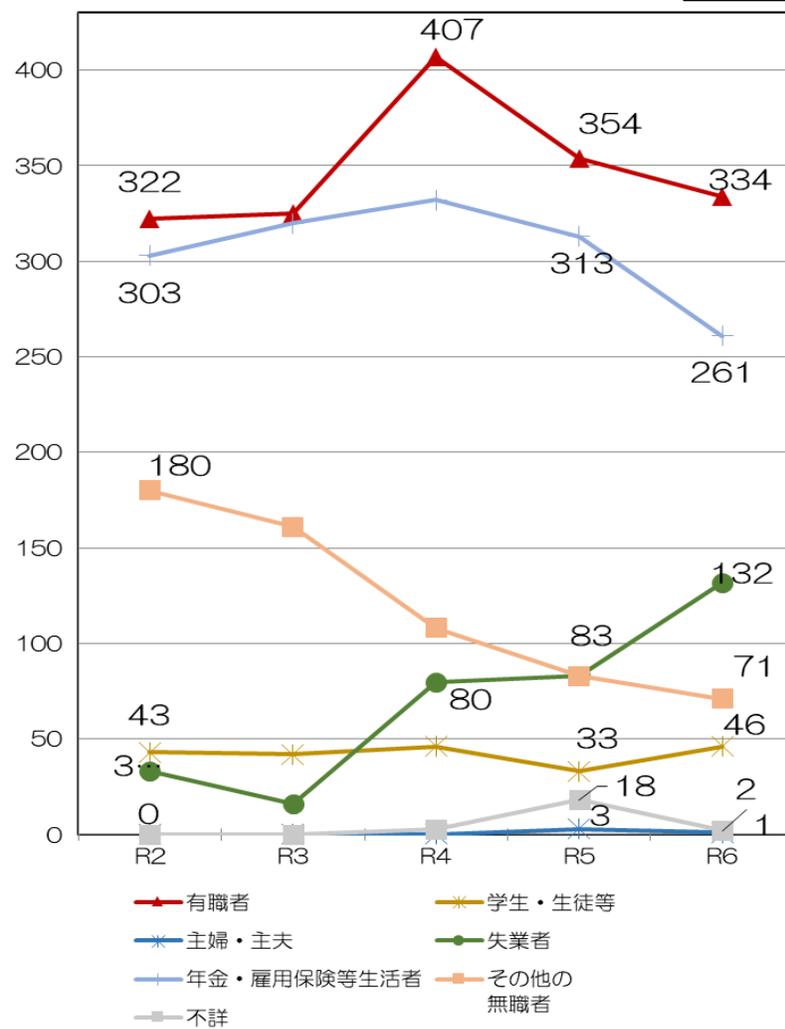
職業別（総数）

図5



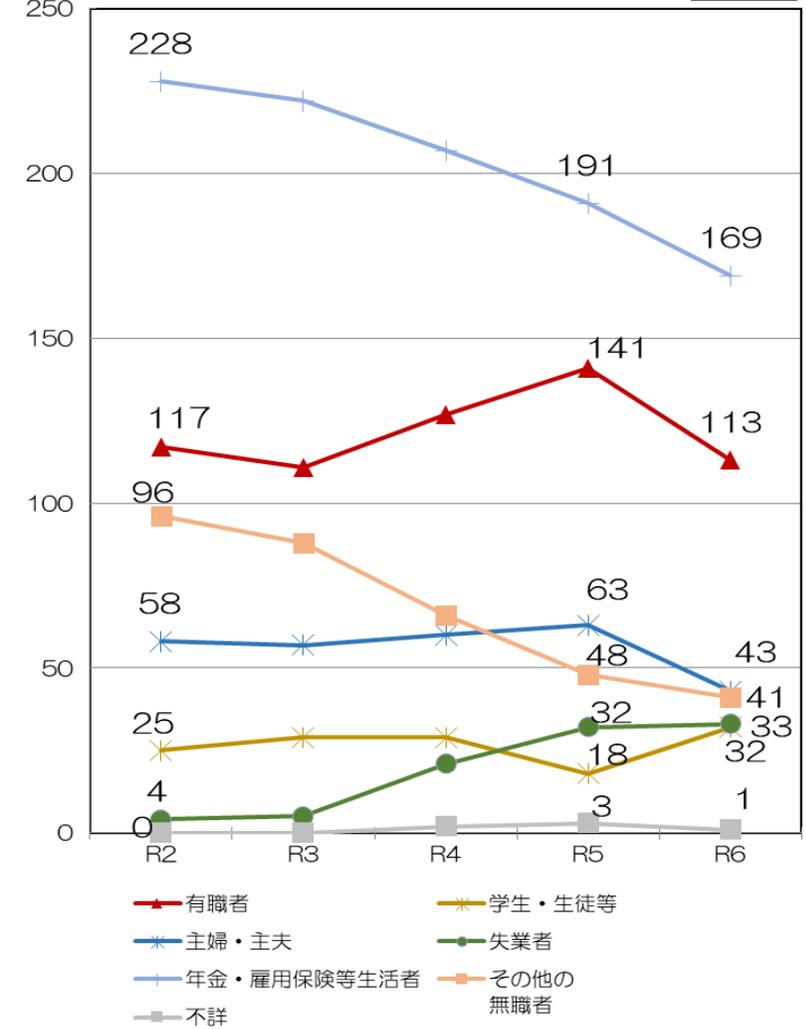
職業別（男性）

図6



職業別（女性）

図7

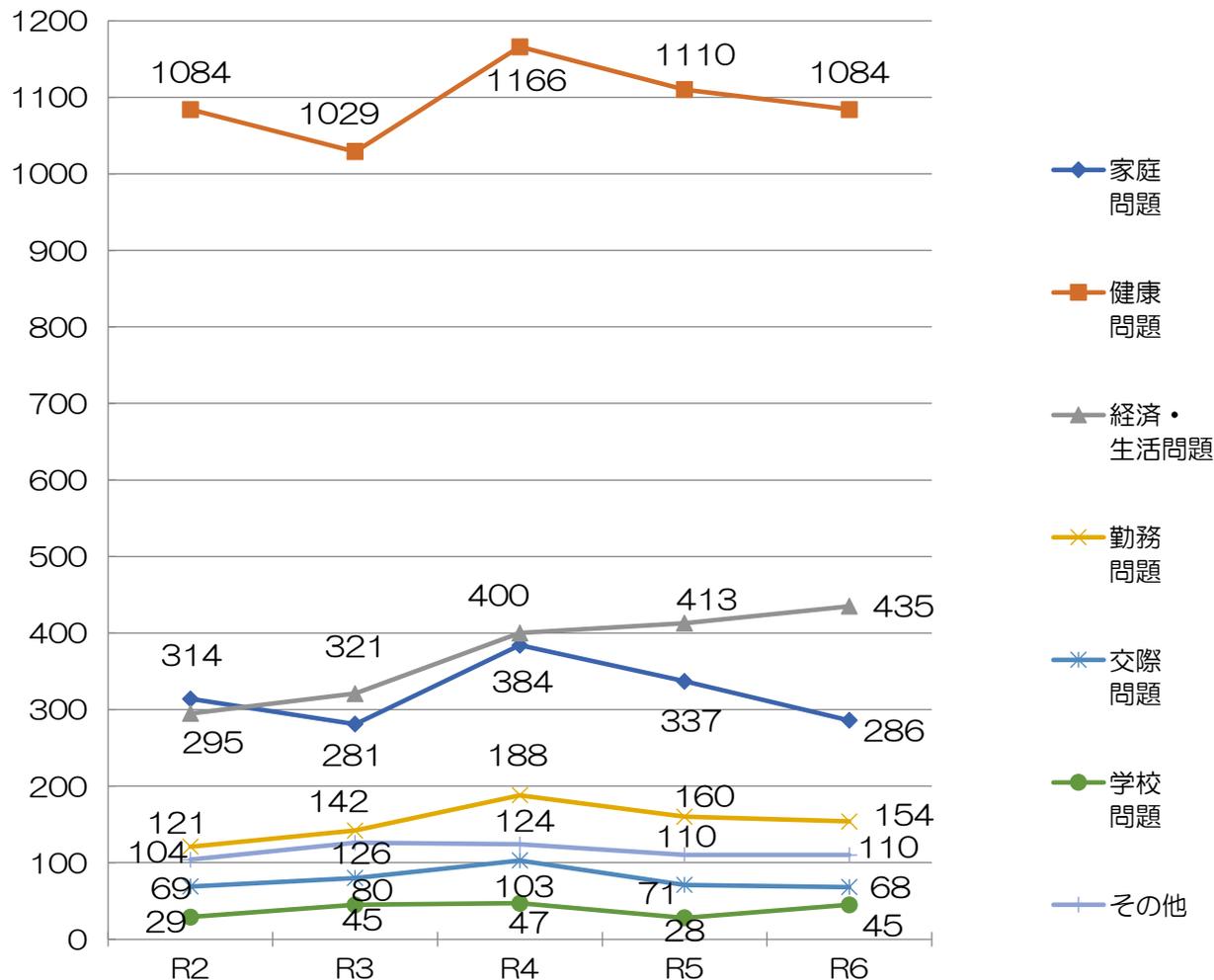


「学生・生徒等」では、令和6年について、令和5年より、男性が13人(対前年増減率+39.4%)増加し、女性が14人(対前年増減率+77.8%)増加した。

経年の状況(令和2年から令和6年)原因動機別

原因動機別（総数）

図8



令和6年について、「健康問題」が最も多く、次いで「経済・生活問題」、「家庭問題」の順となっている。「経済・生活問題」、「学校問題」が令和5年より増加しており、「経済・生活問題」は令和3年以降増加傾向である。